

それぞれの形で社会参加している
「人」をクローズアップ



みなさんは教師をめざす大学3年生。

子どもたちにとって学生のお兄さん・お姉さんと遊べる時間はまた格別で、お互い貴重な体験となっているようです。夏に3人が制作してくれた“七夕飾り”に、子どもたちは大喜びでした。



【伊藤勇祈さん】

Q.ボランティアを始めたきっかけは？

地域に根づいた施設なので、子どもや支える大人など、様々な人と交流ができたと思います。将来教師になりたいので、とにかく子どもと関わるチャンスだと思いました。

Q.続けていて楽しいことは？

子どもたちが笑顔で元気に遊びに来てくれること。「今日も遊ば〜!!」って全速力でタックルされる(笑)。一緒に遊んだり、話したりするだけで元気をもらって、もう本当に楽しいです！学ぶこともあります。

【宮間千聖さん】

Q.ボランティアを始めたきっかけは？

講義だけでなく、実際に子どもたちと関わって理解を深めていきたい気持ちが強く、1年生の頃からずっとやりたいと思っていました。やっと参加することができてとても嬉しいです！

Q.続けていて楽しいことは？

子どもたちは、いつも私たちが思いつかないような斬新な遊びを提案してくれます。その想像力の豊かさに触れるときが一番楽しいです！また、子どもたちと関わる中で私自身も学ぶことが多く、とても充実した時間を過ごせています。

企画のお知らせ

あみこ八街企画(TEL 043-440-0181)
 ・11/6(土) 明日につながるマルシェ風の杜ひろば
 ・11/20(土) 風の杜ひろばで自然とあそぼう
 ・11/7(日)14(日)12/12(日) 一閑張りバッグ作り教室第2弾
 柏センター(04-7170-0939)
 ・11月～算数教室「単元王」開催

千葉センター 放課後の居場所「こどもカフェ 3rd プレイス虹」
学生ボランティア

【中井亜美さん】

Q.ボランティアを始めたきっかけは？

募集チラシの“こどもカフェ”という名前が親しみやすかったことと、毎週強制参加ではなかったので、慣れない私でも続けられるかもしれないと思いました。

Q.続けていて楽しいことは？

子どもたちは学校での出来事などを話してくれます。良かったことを共有すると、私も嬉しくなって元気をもらえます。開所前にスタッフがしてくださる話も密かな楽しみです。一番嬉しいのは、私たちがボランティアを始めたころより来所する子どもが増えたことです。お友達を連れてきてくれることもあり、子どもたちの中で楽しい場所になっているんだと感じます。



各センターで人材大募集！
あなたの魅力をお貸しください。

ポ ボランティア 参 参加者 仕 仕事 場 場所利用

【八街センター】 Tel 043-440-0181

- 買い物バス ● 運転手
- 風の杜ひろば ● 草取
- 子育てサロン ● ● 運営スタッフ
- 外国人との交流 ● ● 運営スタッフ
- ケアメンレンジャー(男性介護者のついで) ● ● 運営スタッフ
- 喫茶アルルカン・風のロジ ● ● 運営スタッフ
- 活動グループ

【柏センター】 Tel 04-7170-0939

- 街の縁側よって ● 運営スタッフ
- 高齢者施設のために ● 誕生日カードづくり
- 生活支援サービス ● ケア者

【千葉センター】 Tel 043-290-8017

- 地域食堂 ● 調理や運営スタッフ
- 放課後の居場所 ● 運営スタッフ
- 生活支援サービス ● ケア者

各センターにお問い合わせください



コミュニティケア街ねっと

つなぐ〜る

2021年秋号
vol.48

キーワードは
つなぐ・つながる

特集(p2.3)
C's cafe 6年のあゆみ

10月1日街ねっとから誕生

特定非営利活動法人
C's コミュニティ

in 志津



【カフェスタッフ】左から石田洋子、奥野秀美、北迫晶子、油橋知恵子

私たちが
がんばります



【サービスマネジメント責任者】
組田香織



【法人理事長
事業所管理者】
津田祐子

★ 行動指針

- ★ 仲間を尊重し、支え合い、高め合います。
- ★ できないとあきらめるのではなく、どうやればできるかを皆で考えます。
- ★ 小さな失敗を恐れず、成長のために役立ちます。
- ★ 固定観念にとらわれず、柔軟な発想でニーズを形にしていきます。
- ★ 広く興味を持ち、気づいたことをアイデアに変えて、新たな試みにチャレンジします。

誰もが明るく元気に楽しく仕事ができる場所であり、
「4つのC」が実感できる地域の居場所でありたい

4つの「C」

- Cozy (コージー) 心地よい・和気あいあいとした
- Comfortable (コンフォタブル) 心やすまる
- Care (ケア) 心づかい・ケア
- Communication (コミュニケーション) 交流・コミュニケーション

実現すること

個性に適した仕事を創り出し、
新しい形の「障害者就労継続支援B型事業」に取り組みます。

C's cafe

～カフェの運営～

- ・フロア業務(接客・配膳・レジ・下膳)
- ・厨房業務(調理・盛り付け・洗い物)
- ・日替わりメニュー
- ・カフェの営業前後の清掃

C's kitchen

～仕込み・弁当部門～

- ・C's cafe で提供するメニューの仕込み
- ・ケーキ・クッキー・ワッフル作りと販売
- ・お弁当作りと販売
- ・メニュー開発・試作

C's factory

～作業部門～

- ・手作品や手作品キットの作成
- ・カフェの布巾洗浄消毒
- ・内職請負業務
- ・コーヒーかすの回収と有機肥料の販売



特定非営利活動法人(認定NPO法人)
コミュニティケア街ねっと
【発行責任者: 岩上 章子】

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1107-7
 【Tel】043-290-8015【Fax】043-290-8016
 【E-mail】info@ccmachinet.jp
 【URL】https://www.ccmachinet.com/
 2021年10月発行





見守り機能がある C's cafe は、
『ここがないと…』と地域の人に求められる存在になりました。
これからもずっと地域の居場所です

いろいろなお客さんが来店されます。
でも、常連さんがしばらく顔を見せない、スタッフは心配してしまう
… そんな C's cafe です

スタッフや他のお客さんとの
おしゃべりが日課という
ひとり暮らしの高齢のお客さん

自宅とは違った環境でコーヒー
を飲み、新聞や本を読みながら
ひとり静かな時間を過ごすお客さん

いつもメニューも
見ずに注文される
常連さん

● 柱となった 2 つの定期イベント ●

C's オレンジ・カフェ (2017.9~2020.3)
~佐倉市の認知症カフェ~

スタッフ全員が認知症サポーター養成講座を受講し、毎月第1月曜に開催していました。特別な企画はせず、“街中のカフェにお茶を飲みに来た”というイメージを大切にしました。時間内は出入り自由で、たまたま居合わせたお客さん同士が交流するという形にしました。オレンジカフェ開催中と知らずに来店したお客さんには、身の回りの介護経験などの聞き取りをするなどして、認知症に関する理解を広げることにつなげました。

佐倉市の認知症カフェとしての活動は終了しましたが、毎日の運営の中で、認知症カフェの意味合いを意識して営業しています。高齢の常連さんも多いので、“毎日が認知症カフェ”の要素満載です。

C's こ〜じのう・カフェ (2018.9~現在)
~高次脳機能障害者と家族のためのカタリバ~

2020年のコロナ感染症拡大を機に参加者が激減していますが、千葉県千葉リハビリテーションセンター、ちば高次脳機能障害者と家族の会の協力のもと、毎月第4月曜日に開催しています。

障がいになって間もない家族を持ち、大きな不安を抱えてやってきた人が、参加者の経験談を聞くことで不安が和らいでいく光景を何回も目にします。当事者同士は“高次脳あるある話”に花が咲き、クリスマスの時期には参加者全員で簡単な X'mas パーティーを楽しみました。毎回、家族同士の情報共有や傾聴、当事者同士の交流や情報交換が盛んで、にぎやかな場となっています。



2015年 11月 27日
OPEN!!

志津市民プラザのオープンと同時に、公募選定事業者として運営を開始しました。街ねっとにとっては設備投資をして運営する初めての独自事業でした。

当初は「市が運営している」という先入観から、メニュー価格が「安価であるべき」というお声があったり、“入りやすいカフェ”にこだわった出入口のないオープンスペースのため、市民プラザの休憩所だと思って、営業時間外に席を利用したり、持ち込み飲食する人もいたり、そんな時期もありました…

あれから6年が経ちました。



ロゴは、スタッフが「消しゴムはんこ」で作成!



★毎秋開催される公民館祭や福祉祭の時には、おにぎり弁当やたい焼きなどを販売

2016年

安眠したい人集まれ!
今日からできる快眠講座

11/20(日)
11:00~
公民館プラザ C's cafe 内
参加費 1,200円(ランチ付)

★「冷え性」「安眠」などをテーマに健康教室を開催(テーマに沿った食材のランチ付)

2017年



★手作り作家を集めてワークショップや作品販売をするマルシェを開催(2016~7年度で計4回)

認知症になっても安心して暮らせる地域をめざして
C's オレンジ・カフェ

毎月開催 第1月曜日
10:00~12:00

申し込み 不要

参加費 300円*

*飲み物と手作りケーキがきます

2018年

高次脳機能障害者やそのご家族が自分らしく生活できる地域をめざして
C's こ〜じのう・カフェ

毎月開催 第4月曜日
13:30~15:30

申し込み 不要

参加費 300円*

*飲み物と手作りケーキがきます

★佐倉市の広報の一環でイメージキャラクターカムロちゃんとコラボ企画、スタンプラリーなどを実施

2019年



★癒しの「ゆるLive」無料開催

2020年



★手作り作家さんたちの作品を展示販売するギャラリーボックス(コロナ禍で休止中)

2021年

9/30で街ねっととしての営業を終了

★新型コロナの影響で中断されてしまったイベントもありますが、コロナ禍だからこそそのC's cafeの役割が浮き彫りになりました。

常連さん

まさに「4つのC」から生まれたかわり

- ◆ 日々の会話の中からそれぞれの生活状況を知り、家族関係やかかりつけ医、通院日まで把握していることもあります。
- ◆ 常連さんの異変を感じて、同館内の地域包括支援センターにつないだことが何ケースもありました。
- ◆ 最近見かけなくなった方がスタッフと別の常連さんの間で話題になり、近所の常連さんに頼んで自宅の様子を見に行ってもらったこともあります。
- ◆ スマホの使い方、宅配便の不在通知への対応などもお手伝いします。
- ◆ スタッフは皆が徒歩圏域在住。常連さんとはカフェの外でも同じ地域住民として、かわりや会話が生まれています。

スタッフインタビュー

他のカフェと違うのはお客さんとの距離感

ひとりで来店される常連さんが多い C's cafe。スタッフは皆、「お客さんとの距離感が近く、信頼感や安心感を持ってもらえている」と感じています。

お客様からは体調のこと、ご家族のことなど、いろいろなお話を伺い、ときには心配になることもあるけれど、「カフェに来ると元気になるよ」、「ここは居場所なんだ」と、うれしい声を聴き、「お疲れさま」、「頑張ってるねえ、応援してるよ」、「また来るね」と、励ましの言葉をいただくことも多いそうです。



コロナ禍

自粛生活により誰とも会話することのない常連さんに電話で安否確認

- ◆ 最初の緊急事態宣言の発令による休業中には、希望する常連さん5~6名にスタッフが定期的に電話かけをしました。
- ◆ スタッフ手作りで感染予防グッズを準備し、その後の緊急事態宣言下では営業を継続しましたが、3回の飲食店抜き打ち調査で感染予防対策は千葉県商工労働部のお墨付き。「ここは他の店と違って、しっかり対策しているので安心して来られる。」という声も聞かれます。
- ◆ なかなかワクチン接種予約が取れない方に、スタッフが一緒にネット予約をしたこともありました。
- ◆ コロナ禍では、常連さんの欠かせない居場所となりました。

これから

ずっと地域の居場所でありたい

C's コミュニティは、活動範囲の広い街ねっとから佐倉市志津という地域に根づいた取り組みになります。その目的は、

- ・ 居場所機能をさらに拡充すること
- ・ 居場所であるカフェ事業を経営的に安定させること
- ・ 障がい者の居場所と仕事を創出すること

「4つのC」が実感できる地域の居場所であり、だれもが明るく元気に楽しく仕事ができる場を実現していきます。

➡➡➡C's コミュニティの様子は、次号でもご報告します。